



“ぎまままに”

川柳

今月のお題

くしやみ

花開き 溢れる花粉 鼻つつく No Mask No Life	夜目遠目 マスク美人は 花粉症 月丘夢子	くしやみ出て 見上げた空に 花霞 加藤正光	バアさまは クシヤミシアラと 股おさえ ぼこべん	へつくしよい！ 春のおとずれ 知る音色 リトルカレー	紅梅美 飛びかう花粉 くしやみする 森本千代美	日溜まりで 子猫のクシヤミ 愛らしい 足立昌代	会議中 くしやみと一緒に おなら出た 久留宮信良
--------------------------------------	----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-------------------------------	----------------------------	----------------------------	-----------------------------

4月1日号の投稿募集
お題は「出会い」です（1人1句）。
締め切りは3月19日（火）です。

■応募方法
住所・氏名またはペンネームを明記し、直接または郵送、Eメールで広報広聴係へ。
〒509-5192（住所不要） ☒ koho@city.toki.lg.jp
☎ ☎ 1111（内線185） / ☎ ☎ 7763
※応募多数の場合は採用されないことがあります。

わたしのほやねさん

「ほやねさん」とは…
つらいときや悩んだとき、そっと寄り添って「ほやね、ほやね」と話を聞いて、心を支えてくれる人

ある子育て支援講習会のグループ討議の場でのこと。「自分がサポーターとしてどんなことができるでしょうか」というテーマで、1人の若いお母さんが話された次のエピソードが印象に残っています。

「小学4年生の自分の息子の良さがなかなか見つけられず、悪い面ばかりが目について、つつい叱ってばかりいます。そんな自分が情けないと常々思っていました。ある日、家族でサラダバイキングの店に行きました。息子と見知らぬ5才くらいの男の子がサラダバーの前でたまたま一緒になったとき、息子がその男の子に順番を譲り、手の届かないサラダをよそってあげたり、違う場所に戻されたトングを元の場所に黙って戻したりする姿を見て、なんて優しい一面があるんだと改めて息子を見直し、うれしい気持ちになりました。店を出たとき、1人のおばさんが近くに来て、『さっき、小さい子に優しくしてあげたね。偉かったね』とさり気なく息子に声を掛けてくれました。親以外の方が、息子の良さを見つけ、ちゃんと褒めてくれたことがうれしく、忘れられません。自分もそういう大人になりたいと強く思いました」

そのエピソードは私の胸にストーンと落ちました。「相手がうれしくなって、周りもうれしくなるような、さり気ない言葉掛けができる人」、それが私の「ほやねさん」です。還暦を過ぎた私ですが、そんな大人になりたいと思います。



ペンネーム ユーミン（土岐津町）

募集

掲載の「わたしのほやねさん」ストーリーの他、市内に実在する「まちのほやねさん」を募集します。あなたがこれまでに出会ったほやねさんを400字程度の紹介文と一緒にお寄せください。

■応募方法
住所・氏名またはペンネーム・電話番号を明記し、直接または郵送、Eメールでまちづくり推進課へ。
〒509-5192（住所不要） ☒ machisui@city.toki.lg.jp
☎ ☎ 1111（内線186） / ☎ ☎ 7763